



隈研吾氏が期待！ 自然と農業と食の町。



8月26日(水)に茨城県境町で開催された美術館等のオープニングセレモニーで、建築家の隈研吾氏から話を伺った林町長。コロナ後の進むべき三芳町の方向性と、町の持つ資源の貴重さを見つめる機会となりました。



三芳町は 東京から一番近い町。



東京の日本橋から30km圏内にある三芳町。日本橋からの距離は横浜市とほぼ同じで、川越市や千葉市よりも都心に近い。アクセスも池袋駅まで東武東上線で30分と抜群。



住民の 三芳町のイメージは？

- 1位 緑豊かな (48.9%)
- 2位 自然環境がよい (42.9%)
- 3位 安心・安全な (16.9%)

平成30年度の住民意識調査によると、三芳町のイメージの1位が「緑豊かな」、2位が「自然環境がよい」で、自然に関連するものが上位を占めています。町の誇りや宝の項目でも「自然・緑」がトップ。三芳の自然はみんなに愛されています。

ナ禍やアフターコロナの中でも豊かな生活を送れるよう、町が進化していく必要があることを気づかせてくれました。

自然・農業・食がある町

三芳町は、「東京に一番近く」「自然が豊か」で「農業も盛んな」「食べ物の美味しい」町……。外出がままならない今だからこそ、住んでいて知らなかった町を散策する絶好の機会です。

今月号の特集は三芳町が誇る「自然」と「農業」と「食」。私たちを豊かな気持ちにさせてくれる町の魅力を探ります。

建築家、隈研吾氏の言葉

今年8月、茨城県境町のセミナーで、林町長は国立競技場の設計に携わった建築家、隈研吾氏と懇談。そこで隈氏は、コロナ後の自治体は、「東京に近く、自然と農業と食のある町の時代」と言われていました（P.3 左上参照）。

隈氏は、三芳町がコロナ後の自治体のホープとなるポテンシャルがあることを示してくれた一方で、住民の皆さんがコ

新

型コロナウイルスの蔓延から早半年。私たちの生活は様変わりしました。その中で、大きく変わったものの一つに「豊かさの価値観」があります。

これまで、会社に行って休日には好きな所に出掛けて趣味を楽しみ、気分転換。そんな生活を送っていた人は少なからずいたのではないのでしょうか。

それが、新型コロナウイルスの影響によりテレワークが推奨され、外出は自粛要請。必然的に家で過ごす時間が増え、「家庭や地域での居心地・住み心地」という指標が今まで以上に重要な要素となってきました。



自然×農×食

Miyoshi is MAHOROBA

豊かな自然、盛んな農業、美味しい食べ物。三芳町が「まほろば(*)」である所以です。今月号は三芳町が誇る魅力と、それに携わる人たちの想いに迫ります。

*まほろば…「素晴らしい場所」「住みやすい場所」という意味の日本古語。

【写真】
ドローンで撮影した上富上空からの地割。美しい短冊型に区切られた畑は、三芳町の自然を象徴する風景です。

【空からみた三芳町】
vol.1さつまいも編
YouTube 動画公開中

